

一般社団法人

兵庫県病院協会

# 会報

● 発行 ●

一般社団法人兵庫県病院協会  
〒651-0086

神戸市中央区磯上通  
6丁目1番11号

兵庫県医師会館7F

TEL (078) 251-3030

FAX (078) 251-3011

会報編集委員会

印刷 株式会社 七旺社



# 目次

## — 巻頭言 —

新型コロナウイルスへの対応と新しい社会

(一社) 兵庫県病院協会副会長 神戸大学循環器内科 教授 平田 健一 ..... 3

## — 随筆 —

新型コロナウイルス感染症の真実

(一社) 兵庫県病院協会理事 神戸市立医療センター中央市民病院 病院長 木原 康樹 ..... 4

断捨離と私

(一社) 兵庫県病院協会理事 医療法人尚生会湊川病院 理事長 細見 和代 ..... 5

## = 会員病院紹介 =

宝塚市立病院

病院長 今中 秀光 ..... 6

医療法人社団六心会 恒生病院

理事長 古瀬 繁 ..... 8

= 令和3年度 近畿病院団体連合会第一回委員会 = ..... 12

## = 編集後記 =

(一社) 兵庫県病院協会副会長・会報編集委員長

社会医療法人愛仁会 明石医療センター 名誉院長 澤井 繁明 ..... 12



〈表紙の写真〉

## 龍野公園紅葉谷 (たつの市)

龍野公園は兵庫県の南西部に位置し、龍野城跡である鶏籠山の一带に整備された公園で、桜や紅葉の名所として有名です。龍野公園の中核施設は江戸時代に脇坂氏によって整備された龍野城です。本丸の中央には1979年に再建された本丸御殿があります。龍野城の本丸から北西方向へ進み、城下町の雰囲気が残る町並みを歩いていくと、龍野公園随一の紅葉スポットとして知られる「紅葉谷」に行くことができます。

さらに紅葉谷から西側へ坂道を登っていくと、「聚遠亭」に至ります。この聚遠亭の中で最も美しい景観を誇るのが「浮堂」です。「浮堂」は江戸時代後期に藩主が孝明天皇から賜ったとされる茶室で、たつの市の有形文化財の指定を受けています。

これから深まる秋を堪能するにふさわしい公園です。

## 巻頭言

新型コロナウイルスへの  
対応と新しい社会

(一社)  
兵庫県病院協会 副会長  
神戸大学循環器内科  
教授 平田 健一

昨年、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染が国内で初めて確認されて以来、1年以上が経過しますが、収束するどころか、多種の変異型ウイルスの出現によってますます感染が拡大し、大都市を中心に感染者が爆発的に増加しています。COVID-19感染拡大のために社会活動は大きく制限され、人の交流も止まっています。病院でも歓送迎会や忘年会などが開催できないため、同僚の間で面識がなかったり、交流がなかったりしています。チーム医療の重要性が指摘される現在、人と人との交流が少なくなることは医療の現場に大きな影響があると心配しています。

今年、7月から8月にかけて、コロナ禍の中で東京オリンピック・パラリンピック2020が決行されました。選手の皆さんからは感動をいただきましたが、第5波の影響で医療現場はますます大変な状況になっています。デルタ株の出現で、ワクチン接種後でも、ブレークスルー感染や子供を介した家庭内感染がおこるなど、次々と課題が生じています。ワクチン接種も徐々に進んでいますが、日々の診療、COVID-19感染への対応、そしてワクチン接種と、医療従事者への負担は増加する一途です。

COVID-19感染拡大は、社会活動だけではなく、病院経営にも大きな影響を与えています。COVID-19患者受け入れのための補償で一時的には助けられても、一般診療への影響が中長期的に病院経営に大きな影響を与えると予想されます。

医療現場はもちろんですが、COVID-19の感染拡大は、教育現場にも大きな影響を及ぼしています。大学でも授業はリモートで行われ、新入生は入学後、長期間同級生と話ができず、クラブ活動も制限されるなど、可哀想な状況でした。小中学校でも感染対策を行いながら、教育水準を維持することは並大抵のことではないと思います。修学旅行や学校行事が縮小や中止となり、多くの思い出を作る機会が失われています。

このような危機的な状況を乗り切るためには、国と地方自治体の連携はもちろん、行政、保健所、公的病院や民間病院、かかりつけ医が協力し、一丸となって対応する必要があります。COVID-19は、まだまだ未知の部分の多いウイルスですが、重症化の機序が少しずつ明らかとなり、新しい治療薬も承認されるなど、進展が見られます。なんとか克服とまで行かなくても新型コロナと共生できる日が早く来ることを願っています。

さて、兵庫県でも、病院の再編、機能分担が進みつつありますが、新型コロナ感染の拡大によって、対応が先延ばしとなっている状態です。将来の人口の減少や、社会構造の変化が予測されるため、病院組織の改変は必須と思われます。新専門医制度も開始となり、若い医師が大病院に集中する傾向があります。厚労省や専門医機構は医師の多い都道府県にシーリングをかけて医師の偏在を改善しようとしています。なかなか前途は多難です。また、兵庫県では、阪神間に医師が集中しており、2次医療圏での医師の偏在をどのように調整するか、今後の課題になると思われます。さらに、2024年4月から医師の働き方改革が適用されることで、医師の人員確保の上でも困難が発生しています。いわゆる兼業も労働時間に含まれることになると大学病院などから、地域医療を支援する人材に制限がかかることとなります。このような多くの困難な課題が目前に迫っており、病院の柔軟な対応が必要となると思われます。

今後は、新しい情報を共有し、関係者が対応策を考え、情報発信をしていくことでCOVID-19と共生していく新しい社会づくりに貢献できればと思っています。

## 随筆

## 新型コロナウイルス 感染症の真実



(一社)兵庫県病院協会 理事  
神戸市立医療センター  
中央市民病院  
病院長 木原 康樹

またコロナの話ですか、もううんざりしているのに。と云われることは覚悟して、今でしか語れないことを語りたい。

神戸市立医療センター中央市民病院は昨年3月3日以来、1年半で1,000名を越す中等症から重症の新型コロナウイルス感染症罹患者の診療に当たってきた。神戸市内で発症した重症者の4割以上を診たことになる。死亡退院が120名超であり、転院後に最期を迎えた方々を含めると死亡率は2割に迫る。これでも諸外国からの報告よりは随分とましな数値ではあるが、これが「ただの風邪」であろうか。

気管挿管され、レスピレータに繋がれ、しかし人工呼吸のリズムに同調するものは少ない。終始ファイティングを繰り返し、苦悶に対して沈静を深めると血圧が下がり、やむを得ず昇圧剤が投与される。次第に高い酸素濃度が必要となり、昇圧剤も追加され、それでも穏やかになることはなく、頻呼吸と頻脈と苦痛が高じてゆく。家族の写真もない機械だらけの部屋で、遺言を語ることもなく、看護師の手を握るでもなく、ぼろぼろに朽ちた肺を抱いて、一人ぼっちの死を死ぬる。

機械音の消えた静寂にあって看護師たちは、他にはだれも近づかない不幸な遺体に、防護服を介して精いっぱいのはなむけを施す。それも束の間、先ほどまでひとであった亡骸は、すべての闇に通じる無機質で漆黒の納袋に封印され、焼き場の重油で焼かれるために送り出される。もう一度見た

かった和田岬を廻る小舟の揺らめきや、茜色の夕焼けに生える六甲山や、案じて余りある家族みんなの顔をその眼に映すことも叶わないままに。

そのひとが何をしたからこんな目に遭うことになった、は問うことができない。できたとしても、それはしてはいけない。そのひとがこれまでどのような人生を歩んできたにしても、この惨めな最期はとても「わりに合わない」のだ。不条理が口を開けて、その事実を呑みこむ。幸せのかけらもない死を周りで見送る私たちも、不吉な風を感じて、唇を固くつむぐ。

そんな出来事がもう100回以上も繰り返されている。こんなことのためにこの臨時病棟を造ったはずではないのに。ああもちろん、その何倍ものひとたちが回復して、ここを後にした。だから許される？何かがせせら笑う。いや、これまで星の数ほどあったではないか、でもお前たちはそれに懲ることがなかった、だからこれからも五万と繰り返されるだろう、と。

医療を荒廃させ、街を打ち払い、国を傾ける。何を求めて、新型コロナウイルス感染症は私たちを追い立てるのであろうか。平和、平等、自由、科学、共存、利便、ゲノム、SDGs…。あるいは、私たちが忘れていた何かを思い出し、伏して畏れるまで。残りの人生はずっとマスクと一緒にあることに、もうそろそろ私たちは気づかねばならない。「もとの生活を取り戻す」というのは実現されない夢にすぎない。それが、新型コロナウイルス感染症の真実であろう。そして、敗者となり打ち捨てられたものに黙々と寄り添うことの他には、混沌の中で私たち人間の尊厳を守り、将来の道標にたどり着く方法はないのだと思う。

## 断捨離と私



(一社) 兵庫県病院協会 理事  
医療法人尚生会湊川病院  
理事長 細見 和代

この1年以上新型コロナウイルス感染症のことで頭がいっぱいでしたが、あまりに息がつまりそうので、先日久しぶりに元町周辺を散策しました。街はどこもハロウィンの装飾であふれ、季節が移りゆくを感じました。「ハロウィンが終わるともう、次はクリスマスですよ！」と行きつけの美容室のスタイリストさん言われ、今年もやり残したこと満載のままあつという間に終わりそうで焦ります。ただでさえ何かと慌ただしい年末なのに、窓ふきや換気扇掃除は大変だし、どこから手をつけたらいいのか…考えただけで憂鬱になってしまいます。主婦にとって年末の大掃除は一大イベントであり、頭を悩ます関心事です。

さて、私事で恐縮ですが、私は掃除も片づけも大の苦手で大嫌いでした。白状しますと、以前のわが家は汚部屋でした。娘がまだ幼い頃、休日救急当番に当たっていた私は、娘を知人宅に預けて病院へ出てきました。仕事に「ご自宅から緊急の電話です」と連絡が入りました。え!? 自宅から!? 嫌な予感のは的中しました。電話に出るなり知人は切迫した様子で「大変です!! ドロボーです!! 今から110番します!!!」と。頭が真っ白になりました。娘の忘れ物を取りに知人が私の自宅玄関を開けたところ、その酷い有様に驚愕されたのでした。外ではそれなりに社会的地位もあり、“先生”と呼ばれる立場でありながら、ひた隠しにしてきた恥部を知らずも知られてしまったときのショックは計り知れません。当時の私は家事や育児、仕事に追われ、いつも不機嫌でした。家族にもよく当たっていたと思います。

それが断捨離との出逢いで随分と変わりました。

た。断捨離はやましたひでこ氏が提唱している片づけ術で、ヨガのインストラクターでもあった彼女が、ヨガの“断行・捨行・離行”という心の執着を手放す行法哲学を日常の片づけに落とし込んだメソッドです。今の自分にとって不要なモノを“断”ち、“捨”てることを繰り返すうちに、心のガラクタ（執着）からも“離”れられる、という心の片づけ術でもあります。その年のゴールデンウィークに大量のゴミ・ガラクタと格闘し、1週間で45ℓのゴミ袋約25個分が自宅から出ていきました。ゴミ収集車を見送りながらも言えない清々しい気持ちになったことを思い出します。

断捨離によって私に起きた変化としては、①部屋が片づき空間にゆとりが生まれた、②家事をマメにやるようになった、③家族をふくめ人間関係が良好になった、④健康面が改善された、⑤自分に少しは自信がもてた、などでしょうか。当時の私はあらゆることに自信をなくし、自分が大嫌いでした。

空間にゆとりができると気持ちにゆとりができます。その気持ちのゆとりが多面で良い変化に繋がっていったように思います。すっかり断捨離の魅力に嵌った私は、なんと! やましたひでこ氏に弟子入りし、ついにはやました師匠公認のトレーナーの資格を得ることができました。いつか本業だけでなく断捨離トレーナーのお仕事もしたいなと思っています。

モノが多すぎることの弊害については、かのナイチンゲールも『看護覚え書』に次のようなことを書いています。

「古い壁紙、汚れた敷物、掃除をしない家具、これらは地下室に馬糞の山を置くのと同じくらい、空気を不潔にする立派な原因となる」

モノが多ければ、それだけ塵やほこりが堆積しやすい環境が作られます。ナイチンゲールは、住空間が汚染されていることが原因と思わず薬や治療に頼ることに警鐘を鳴らしたのだと思います。

長引くコロナ禍で常に緊張を強いられ、閉塞感いっぱいストレスの多い日々が続いております。ひとつでも余計なモノ（事）を手放して、心も身軽になりたいと思う今日この頃です。

一日も早くコロナが終息しますように!

## 会員病院紹介

### 宝塚市立病院



病院長 今中 秀光



宝塚市立病院は、宝塚市が設置する市内唯一の公的病院であり、現在の診療科数は31科、許可病床数は436床です。兵庫県から災害拠点病院、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院の指定を受けるとともに、昨年12月には県新型コロナウイルス感染症重点医療機関にも位置付けられました。

この度、一般医療、災害医療、救急医療、がん医療、そして新型コロナウイルス感染症にも幅広く対応する地域の中核医療機関である当院が、兵庫県病院協会の会員の皆様にPRできる機会を得ました。今回、がん医療を充実させるために開設した放射線治療センターと重点的に取り組んでいます地域連携について、以下にご紹介します。

#### 1. 放射線治療センター

##### 1-1 放射線治療センターの紹介

放射線治療センターは、平成30年4月に開設され、今年で4年目を迎えました。また、リニアックとしてトモセラピー「Radixact」（アキュレイ社製）が稼働している市内唯一の放射線治療施設です。本年9月現在、常勤治療医師2名、非常勤治療医師7名、診療放射線技師6名（専従、うち治療専門医学物理士1名、医学物理士4名）、看

護師3名（専従1名、うちがん放射線療法看護認定看護師1名）、事務員2名の体制で診療しています。最新の放射線治療装置導入による宣伝効果は大きく、集患も順調に進んでいます。令和2年度の放射線治療新規患者数は263名、うち脳定位放射線治療（SRT）は9名、体幹部定位放射線治療（SBRT）は31名であり、治療の部位別では、肺（22%）、前立腺（19%）、骨（17%）、乳房（16%）の順に多く、すべての部位で強度変調放射線治療（IMRT）による高精度な放射線治療を実施しています。

##### 1-2 トモセラピー「Radixact」とは？

トモセラピー「Radixact」とは、CT（コンピュータ断層撮影装置）のような形をした放射線治療装置です。この装置には、CT機能も組み込まれており、CTによる撮影と放射線治療を同一の寝台上で行うことにより、画像誘導放射線治療（IGRT）が実施可能となります。さらに、新しい呼吸性移動対策のソリューション「Synchrony」が装備された点が最大の特長です。



トモセラピー「Radixact」



治療センタースタッフ集合写真

### 1-3 「Synchrony」(動体追尾照射システム)について

「Synchrony」は、動く病巣に対して安全に放射線治療を行うための「Radixact」独自の技術です。これにより、病巣の位置を正確に把握し、動体追尾照射が可能となりました。これは、放射線治療における呼吸性移動対策において、大きなアドバンテージとなります。令和2年6月に日本初となる肺がん症例、さらに、令和2年7月に世界初となる肝がん症例の臨床を経験しました。これらの貴重な経験を症例報告として論文発表を行いました。

### 1-4 放射線治療センターのコンセプト

当センターでは、この最新の放射線治療装置を用いて、副作用が少なく、病変部への放射線をより集中的に照射することが可能な放射線治療を行います。患者さんが身体に優しい放射線治療を安心して受けていただける体制を整え、決してあきらめないがん治療を専門スタッフが一丸となって実践しています。

### 1-5 安全で安心な放射線治療の提供

安全で安心な放射線治療の提供には、専門的な知識・経験を持った医師による放射線治療の実施に加えて、それを支える経験豊富なスタッフが必要です。当センターでは、医学物理士、放射線治療品質管理士などの資格を有する放射線治療専門技師が、安全な放射線治療のため徹底した品質保証、品質管理(QA/QC)を行います。また、がん放射線療法看護認定看護師により、患者さんや家族の方々に安心して放射線治療を受けていただけるように、患者さんの治療を全力でサポートしています。さらに、スタッフの資格取得や学位取得を奨励し、各スタッフのスキル向上を図ることで、安全で安心な放射線治療の実施に繋がっています。

## 2. 地域医療連携部

### 2-1 地域医療支援病院

平成25年11月に地域医療支援病院に承認され、「患者の幸せを職員の幸せにつなぎ、地域から信

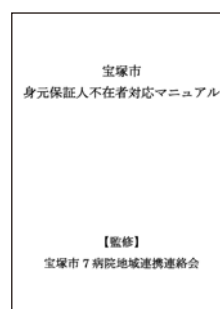
頼される病院になります」との理念を掲げています。

### 2-2 患者サポートセンターの開設

令和2年8月に「患者サポートセンター(patient support center:以下PSC)」を開設し、「私たちは、患者さんの日常生活と医療を切れ目なくつなぎます」をコンセプトに掲げています。紹介・逆紹介業務、患者総合相談、医療福祉相談、入院支援、病床管理の部門があり、患者さんやご家族が安心して治療が受けられるよう、また、安心して療養生活を送れるよう、地域の医療機関や介護サービス提供事業者等の在宅チームと連携しています。相談は患者・家族だけでなく、関係機関からも幅広く受け付け、スピーディで丁寧な対応を心掛けています。相談内容は医療や看護、福祉、お薬など多岐に亘りますが、看護師、医療ソーシャルワーカー(以下MSW)、薬剤師等が対応しています。

### 2-3 医療ソーシャルワーカー(MSW)の仕事

病院で業務をしていると福祉的課題を持った方に遭遇することがあります。身寄りがなく、判断能力に乏しい方が医療同意・意思決定支援を必要とした場面や虐待が疑われる児童が来院した時、MSWへ連絡が入るようになっていきます。MSW単独で解決できない問題も多いため、院内の他職種や院外の関係機関と連携・協働しています。身寄りがいない方へのより良い支援に向けて、「宝塚市7病院地域連携連絡会」で問題を取り上げ、「身元保証人不在者対応マニュアル」を完成させました。また、児童虐待の対応については、院内マニュアルの見直しを行い、事案の検証や児童虐待に対する啓蒙などに関して、院内で定期的に話し合いを持つことができました。



身元保証人不在者対応マニュアル  
近隣病院と共同して作成しました。  
学会内でも高い評価をいただきました。

## 2-4 地域医療への貢献

今後は外来での医療福祉相談をいっそう充実させ、福祉的課題を抱えた方が社会的入院に至らないよう、市民が可能な限り住み慣れた場所で安定的な生活が継続できるよう努めていきます。

## 3. おわりに

最後に、当分の間コロナと共存する「With Corona（ウィズコロナ）」の世界が続くと予想されます。この災禍が一日も早く収束することを願うとともに、この危機を変革の「チャンス」と前向きに捉え、現在（いま）われわれにできることを確実に実行しています。

## 4. 病院概要

開設者：宝塚市長 山崎 晴恵

設立日：昭和59年5月21日

所在地：宝塚市小浜4丁目5番1号

許可病床数：436床（一般病床436床）

職員数：675人

※令和3年7月1日現在

（医師121人、看護師400人、

医療技術職123人、事務31人）

医療法人社団 六心会

# 恒生病院



理事長 古瀬 繁

## 1. はじめに

当院は長閑な田園風景が広がる神戸市北区道場町に位置しています。1984年に神戸市北区有野町二郎において開設され脳神経外科を中心とした救急医療を行い、地域医療に貢献してきたものと自負していますが、2007年に現在の神戸電鉄道場南口駅前に移転し、その後2013年に回復期リハビリテーション病棟を開設し現在に至っています。2019年には近隣の地に関連施設として地域包括ケア病院「恒生かのこ病院」を開設、人事交流、電子カルテの共通化も含めて六心会一体で運営することにより、急性期から回復期、維持期、さらには在宅とシームレスに医療・介護を提供し、地域包括ケアの中心的存在となり得るように環境整備を行いました。超高齢社会を見据え、これまで以上に地域に信頼される誠実な医療・介護を提供していきます。



恒生病院外観



## 2. 病院概要

病 院 名：医療法人社団六心会 恒生病院  
 所 在 地：〒651-1505  
 神戸市北区道場町日下部1788番地  
 開 設 者：古瀬 繁  
 病 院 長：田村 昌吾  
 開 設：1984年 2月  
 病 床 数：109床（急性期59床 内SCU3床、  
 回復期リハビリテーション50床）  
 敷地面積：6114.70㎡  
 延床面積：9752.19㎡  
 駐 車 場：97台  
 診療科目：脳神経外科、神経内科、整形外科、  
 内科、循環器内科、麻酔科、放射線科、  
 ペインクリニック内科、リハビリテー  
 ション科  
 認定施設：日本医療機能評価機構認定病院  
 (3rdG：Ver.1.1)  
 日本脳神経外科学会 専門医研修プロ  
 グラム連携施設  
 日本リハビリテーション医学研修施設  
 日本麻酔科学会認定病院  
 日本脳卒中学会一次脳卒中センター  
 附属施設：事業所内保育事業 いちご保育園  
 関連法人：社会福祉法人 黎明会

## 3. 法人沿革

1984年 2月 神戸市北区有野町二郎において恒生  
 病院 開設  
 1988年 8月 医療法人社団六心会 設立  
 1993年10月 伊丹恒生病院開設（伊丹市昆陽）  
 2000年 2月 介護老人保健施設「エスペランサ」  
 開設（宝塚市）  
 訪問看護ステーション「ルシエール」  
 開設（宝塚市）  
 2001年 4月 指定居宅介護支援事務所「ケアメイ  
 ト」開設（宝塚市）  
 2006年10月 病院機能評価認定（Ver.5）  
 2007年11月 神戸市北区道場町日下部1788番地に  
 新築移転

2007年12月 指定居宅介護支援事業所「ケアメイ  
 ト神戸」開設  
 2008年 2月 訪問看護ステーション「ルシエール  
 神戸」開設  
 2010年 2月 伊丹恒生病院 伊丹市西野 1 丁目  
 300番地 1 に新築移転  
 伊丹恒生脳神経外科病院へ名称変更  
 2010年 4月 「いちご保育園」併設  
 2011年10月 グループホーム「こころ」開設  
 2012年 4月 小規模多機能型居宅介護「こころ」  
 開設  
 2013年 4月 恒生病院 回復期リハビリテーショ  
 ン病棟 開設  
 2015年 4月 恒生病院 訪問リハビリテーショ  
 ン事業所 開設  
 2016年 7月 脳卒中ケアユニット（SCU）開設  
 2016年12月 脳卒中センター 設置  
 2017年 5月 訪問介護事業所  
 「クオーレ神戸」開設  
 2019年 5月 恒生かのご病院開設  
 通所リハビリテーション施設（デ  
 イケア）開設  
 サービス付き高齢者向け住宅  
 「かのごヒルズ」開設  
 上記開設に伴い訪問看護ステー  
 ション「ルシエール神戸」移設  
 居宅介護支援事業所「ケアメイ  
 ト神戸」移設  
 訪問リハビリテーション 移設  
 訪問介護ステーション「クオーレ  
 神戸」移設  
 2021年 4月 道場あんしんすこやかセンター 開設



道場あんしんすこやかセンター

#### 4. 理念と基本方針

##### ————— 六 心 会 理 念 —————

「人間への大いなる愛と情け（愛情）と他者への慈しみの心（慈悲）を持ち、誰に対しても等しく優しい気持ちで接し（平等）、常に誠心誠意、全人格を医療・介護に捧げ（誠実）、絶えず新しい知識・技術の習得に努め、物事の理を悟り（智慧）、そして自らを省みる心を持ち（謙虚）、医療・介護を通じて地域社会に貢献し、社会正義を実現することを誓います」



赤：情熱・愛情

青：誠実・理性

緑：安心・安全・平和

「六」をイメージし、人と人が永遠に手を取り合っている姿を示しています。

##### ————— 恒 生 病 院 理 念 —————

「誠実な医療・介護を通じて社会に貢献する」

##### ————— 基 本 方 針 —————

- 1) 脳神経外科を中心とした救急医療に情熱を持って取り組み、地域医療に貢献します
- 2) 患者様の尊厳を守り人権を尊重し、安心して安全な医療、介護を提供します
- 3) 絶えず新しい知識と高度な技術の習得に努め、地域から信頼される施設を目指します
- 4) 職員一人ひとりが生きがいとやりがいを持って全人格を医療、介護に捧げられる職場を実現します
- 5) 法規範を遵守し開かれた施設として情報を公開し、第三者評価を積極的に受け入れます

私たちは「誠実」という言葉を大切にしています。

#### 5. 地域における当院の役割

- 1) 救急医療・回復期医療：神戸市第二次救急病院協議会に参加し、神戸市北区、三田市、西宮市、丹波市を中心として毎年1,000例以上の

救急車を受け入れており、脳神経外科のみならず循環器科、整形外科等の手術を年間400～500例行っています。今後は消化器内視鏡手術も今以上に積極的に行っていく予定です。関連施設の恒生かのご病院においては地域包括ケアを推し進めていく上で、在宅患者の急変時の受け入れ、レスパイト入院、更に今回のようなコロナ禍における後方支援病院としても積極的に対応していきます。

- 2) 脳卒中センター：2台のMRI（3T,1.5T）、CT（80列）、血管撮影（Siemens biplane）を24時間稼働し、田村院長を始めとして血管内治療指導医2名、専門医1名で24時間365日対応しています。年間500名の脳卒中患者の入院があり、緊急経皮的血栓回収術数十例を含め年間120例ほどの血管内治療を行っています。また脳卒中ホットラインを設置し、近隣の医療機関から気軽に相談して頂ける体制を取っています。

- 3) 回復期リハビリテーション：急性期早期からのリハビリおよび急性期治療後の回復期リハビリをリハビリテーション専門医、脳神経外科医、整形外科医を中心として、また心臓リハビリテーション指導士、呼吸療法士、脳卒中認定理学療法士などの資格取得者も含めてリハビリテーション科65名体制で対応しています。年間患者約300例、在宅復帰率88.8%、平均入院日数60.7日です。また脳卒中後遺症の痙性麻痺患者に対するボトックス注射も行っています。



恒生病院  
回復期リハビリテーション病棟 リハビリテーション室

4) 地域包括ケア：この4月に神戸市より「あんしんすこやかセンター」の運営を委嘱され、地域住民に対して医療・介護・福祉・保健など、よろず相談できる体制を整えました。また恒生かのこ病院に付属した「かのこホール」を地域住民が健康講座、「100歳いきいき体操」、老人クラブ、地域の集会などに自由に利用していただくことも可能になりました。さらにはデイケア、サ高住、訪問看護、訪問介護、訪問リハビリ、指定居宅介護事業所も併設しており、恒生病院、恒生かのこ病院を中心としたシームレスな医療・介護を提供できる体制を構築しています。また関連法人の社会福祉法人黎明会とも連携し、地域の福祉、保育事業にも積極的に関わっています。

## 6. 最後に

今回の新型コロナ禍において医療機能の分化、役割分担の必要性が認識されました。これからの超高齢社会、多死社会、人口減少、社会保障費の削減等の医療・介護に関わる諸問題に対して医師会、地域医療機関、行政、地域住民と協力しあって地域の安心・安全、健康を守り、街づくりなども含めた地域の発展に寄与していきたいと思っています。



恒生かのこ病院



恒生かのこ病院 かのこホール



## 令和3年度 近畿病院団体連合会第一回委員会

令和3年8月3日(火)、13:30～17:10 近畿病院団体連合会の委員会が開催されました。滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、奈良県の10の病院団体がWeb会議により参加しました。当協会からは大村会長、太城副会長、澤井副会長、大西副会長、平田副会長が参加しました。

担当県である奈良県病院協会 岡村隆仁副会長の司会で、奈良県病院協会 青山信房会長の開会挨拶、奈良県福祉医療部医療政策局 平夏来局長の来賓挨拶があり、議事に入りました。

青山信房会長が議長に選出されて議事進行を行い、役員選出がなされたあと協議事項として以下の3点について各団体から各府県の状況について報告がありました。

- ①新型コロナワクチンの接種状況について(京都府私立病院協会)
- ②地域医療構想への対応状況について(奈良県病院協会)
- ③医師の働き方改革への対応状況について(奈良県病院協会)

議事終了後、京都大学名誉教授 川村孝氏による「新型コロナウイルス感染症～その本質と対策を考える～」の特別講演が行われました。

### 編集後記

巻頭言にて平田先生が詳しく書かれているようにコロナウイルス感染症が猛威をふるい、世の中のすべてのことがこのウイルスに振り回されている状況が一年半以上続き、いつ収束に向かうのかも予想できないため不安が募っており、日本中が暗い不安に包まれ活気がなくなってきているように思えます。

早く活気のある明るい日本に帰ってもらいたいものと望んでいます。

今回、重症患者を治療している最前線の医療現場の状況を木原先生が書かれていますがある程度は予想していましたが予想を超える状況が起こっているのだと実感し改めてそのご努力に敬意を表します。

病院紹介では宝塚市立病院は地域の拠点病院として機能し特に最近では放射線治療に力を入れていること、恒生病院は30年以上にわたって地域に根差して着実に発展されたことが理解できました。

最後に大変お忙しい中、執筆にご協力くださいました先生方並びに原稿整理の労を担って下しました事務局の方々に心より感謝いたします。

(一社) 兵庫県病院協会副会長・会報編集委員長  
澤井 繁明  
社会医療法人愛仁会 明石医療センター 名誉院長 記